

# 第1回 人口減少・超高齢社会対策委員会

平成25年11月7日(木) 14:30~  
東海大学校友会館「望星の間」



9月に委員募集を行い、29の企業・団体に委員のご登録をいただきました。

第1回委員会には25名の委員が出席し、取組みの一歩を踏み出しました。委員会の前半には国立社会保障・人口問題研究所 企画部の佐々井室長よりご講演をいただきました。後半は「生団連ならではの人口減少と超高齢社会への対応をいかに進めるべきか」ということについて、委員による意見交換を行いました。

## 議事概要

### 議題1. 日本の人口及び高齢化の推移とそれに伴う生活者の周辺環境の変化について

講演者：国立社会保障・人口問題研究所 企画部  
第四室長 佐々井 司 様



講師：佐々井 司 様

#### 【講演内容】

#### 1. 人口減少社会の到来

人口の推移(過去～現在～将来)についての分析  
少子化・高齢化によって生じる社会現象についての考察

#### 2. 少子化と社会変容

出生率(過去～現在～将来)についての分析  
少子化の社会的要因についての考察  
少子化による社会的な課題についての考察

#### 3. 日本の地域のゆくえ

都道府県別の人口減少・高齢化  
(過去～現在～将来)についての分析

#### 4. まとめ

少子高齢化・人口減少を前提とした社会展望  
(世界での日本の位置づけ・役割)  
人口移動への対応(地方をどうするか)  
それぞれの立場で、次世代のために何ができるか

### 議題2. 取組み内容について

まず事務局より、生団連ならではの人口減少と超高齢社会への対応を行うため、「生活者視点」・「生活産業と消費者団体の協働」・「実践」の3点を基軸とし、生活者の身近な課題に取り組むという方向性を提案しました。その後、委員の皆様による自由討論が行われました。

#### ○自由討論での内容(順不同・概略)

##### ・生活者視点

「生活者の身近な問題に取り組むには、ミクロな視点を持つことが重要」  
「生活者の実態を把握するため、調査を行ってはどうか」

##### ・生活産業と消費者団体の協働

「企業や業界の垣根を取り払い、それぞれの知見を持ち寄り、ともに考えよう」  
「少子化、高齢化に役立つメーカーの商品をうまく活用できないか」

##### ・実践

「いつまでに行うかという目標設定が必要ではないか」  
「総論、理想論になることは活動の具体化につながらないので避けるべき」  
「取組みは単発でなく、継続的に進めるのが望ましい」

##### ・議論、討議方法

「活動を具体化を効率的に行うための少人数のワークショップや分科会の設置」

##### ・取組みテーマの提案

「高齢者の継続雇用」「若者の雇用拡大」「女性の労働環境の整備」  
「子育て世代の持つ先行きへの不安を払拭する活動」

##### ・その他

「高齢者のあり方はかつてのイメージから変化していることをしっかり把握しないといけない」  
(65～75歳は自分たちを高齢者と思っておらず、実際に非常に元気)  
「高齢者は多様で1人1人まったく違うので、一括りにしてはいけない」  
「高齢者に対するサービスを過剰にすると楽をし過ぎてどんどん弱っていく。高齢者が元気に生活できるためには、一概に手を差し伸べるのも考えものではないか」  
「他の団体との連携の検討」(例:人口減少と高齢化を最重要課題と表明している神奈川県との連携)  
「取組み事例の紹介」(例:高齢者を中心とした地域コミュニティ、健康寿命を延ばすプロジェクト)

今回委員の皆様よりいただいた多くのご意見をもとに、「生活者視点での実践」を目指して取組みを進めます。

